

令和6年度事業計画について

令和6年度事業計画書

社会福祉法人九十九里ホーム

新型コロナウイルス感染症が蔓延し、数年が経過した。今後は様々な感染症と共存し、社会生活を営んでいかなければならない。加えて、長引く物価高騰は、法人運営に大きな影響を与えている。このような中、3月31日に銚子連絡道路二期区間の開通が決定し、地域の活性化や日常生活の利便性が期待されている。今後も社会福祉法人としての役割を認識し、法人の理念“一人ひとりに愛と希望を”は変わることなく、それに基づき、細やかな諸サービスの提供に努めるとともに、法人の各事業の健全な発展と新しい福祉ニーズに対応した法人事業運営を推進していかなければならない。当年度における重点項目は以下のとおりとする。

1. 各施設の運営状況の見直し

物価高騰による法人運営への影響は大きい。各施設がそれぞれの足下を見据えて、より一層の内部充実を図り、運営向上に努めなければならない。

2. 社会福祉法人滋生福祉会との吸収合併後の取組み

社会福祉法人滋生福祉会との合併事業については、令和6年1月1日付けで合併登記が完了した。今後は特別養護老人ホーム太陽の家が健全な運営ができるよう努める。

3. 大規模修繕の実施

いくつかの施設の老朽化が進んでおり、計画的に大規模な修繕や設備機器の入替を実施する必要がある。緊急度に応じて順次対応するが、内容によっては補助制度の活用を検討する。

4. 飯倉駅前地区における事業の実施

飯倉駅前地区における事業は、『飯倉駅前あかしあこども園』『飯倉駅前特別養護老人ホームシオン』『聖アンナ館』は、順調に運営がなされているが、『地域交流センターナザレの里』は、コロナ禍の影響により全面的に開設となっていない状況である。現在は、国や県の補助金等を活用し少しずつ活動を行っている。今後も、匝瑳市に引き続き支援を依頼し、全面開設に取組み、人々の交流の場としての役割を果たしていく。

5. 研修事業及びIT化推進の継続

平成26年度より開始した介護職員初任者研修や翌27年度に開始した介護職員実務者研修は地域の介護職員人材確保にも貢献している。また、各施設のIT化も法人全体として計画的に導入して業務効率化に役立っている。引続きこれらの事業には取り組んでいく。

令和 6 年度事業計画

九十九里ホーム病院

医療を取り巻く環境は、厳しい状況が続いている。当院も数年来厳しい経営状況が続いている。昨年 11 月 1 日より地域の医療ニーズに応えると共に、医療機能の向上や経営改善を目指し療養病棟の一部（29 床）を回復期リハビリテーション病棟へ転換した。旭匠地区には回復期リハビリテーション病棟のある医療機関はなく、この病床転換により、当院は 3 階病棟に一般病床と地域包括ケア病床、2 階病棟に療養病床と回復期リハビリテーション病床の 4 つの入院機能を持つ医療機関となった。今後更に、医療機能を一層向上させ地域医療の貢献に努める。

1. 診療業務

地域医療の役割、連携の観点から急性期病院からの転院の受け入をスムーズに行い病床稼働率を上げる。令和 6 年度診療報酬の改定内容を習得し、一般病床と地域包括ケア病床の選別を適切に行う、療養病床については医療区分を見極め診療点数の増加を図る、回復期リハビリテーション病床については地域の各医療機関と連携をとり、医師、看護科、リハビリテーション科、医療相談室、薬剤部、栄養科等関連するすべての職員がチームとなり医療を提供する。それらを踏まえ目標を次のように設定する。

外来	目標単価	6,600 円	目標 1 日平均患者数	140 名
入院	目標単価	21,000 円	目標 1 日平均患者数	105 名

2. 医療スタッフの増強

医療従事者の人材確保は年々厳しくなっており、働き方改革に基づいた職場作りと人材の定着化、人材の育成に取り組む。健康診断、保健指導、ストレスチェック等を実施しながら心身共に安心して健全に勤務が出来る環境を整える。求人については紹介会社等の利用、ホームページ等への掲載、実習生の受け入れ、関係機関と連携をしながら人材確保に努める。

3. 医療安全・感染対策

安心安全な医療の実現のため各種委員会、部会を開催し事故報告の原因分析、対策を検討し未然に防げるよう徹底する。又、医療安全研修会、感染対策研修会等に積極的に参加し患者および職員の事故防止に取り組む。

新型コロナウイルス感染予防対策の継続、並びに感染者発生時に適切な対応を行う。

4. 医療機器・器具及び備品の整備

各部門の機器の老朽化、緊急度に応じ必要な機器の整備を図る。

医療必要度の高い機器の整備を優先し、徐々に機器整備を進めていくこととする。

5. 無料低額診療事業としての役割強化

社会福祉法人の医療機関としての認識が薄れている現状から、院内全般にわたり職員の意識改革に取り組むこととし、あらゆる機会をとらえ無低事業の制度、意義、役割、内容について周知を図っていくこととする。医療相談室での取り組みについても病院全体でこれを支え、無低事業を強化していく。

令和6年度 事業計画書

特別養護老人ホーム松丘園
ユニットケア松丘園
ショートステイサービス松丘園
九十九里ホームデイサービスセンター
ケアサロン 悠々
九十九里ホーム飯高デイサービスセンター
九十九里ホーム居宅介護支援事業所
匝瑳市西部地域包括支援センター

特別養護老人ホーム松丘園は、入所・短期入所・通所・居宅介護支援・地域包括支援といった多様な事業所を有している。それぞれが連携してサービスを繋げられる様、地域の利用者の介護ニーズに合わせて、総合的な援助を目指していく。

1. 利用者生活の安心・安全の確保

各サービス利用者の生活の安心・安全を確保するため、多職種での健康管理や感染症対策を行い、身体拘束廃止や虐待防止のための研修会を実施する。また、看取り介護についても、最期まで安心して施設での生活が支援できるように、利用者本人・家族とのコミュニケーションを密に行い、情報共有し適切に対応していく。そして利用を希望されている方がスムーズな利用を行える様に各所との調整を行い、迅速に受け入れが出来る様にしていくとともに、苦情やリスクの早期発見・対応にも努める。

2. 人材の確保・定着

各種学校や諸団体からの各種実習・インターンシップ・介護体験・見学・ボランティア等を感染症対応に配慮、工夫をしながら受け入れ、将来の人材確保に結び付けていく。また、介護ロボット、コミュニケーションロボット等を適切に活用し、生産性の向上を図っていく。

職員の定着に向けて、職員検診や保健指導、ストレスチェックの実施、ハラスメント防止の研修及び相談受付に取り組むこととする。又、適宜職員面談を行うことで、心身共に安心して、健全に勤務が出来る働きやすい環境を整え、離職を防止する。

3. 職員の資質向上と育成

介護職員初任者研修や実務者研修等による職員の資格所得やキャリアアップに向けた取り組みを支援すると共に、Zoom等を活用した専門知識や技術向上のために施設内の研修や施設外の研修会に積極的に参加し自己研鑽に取り組む。また、新しい取り組みとして事業所間での交換研修を計画し、職員の視野を拡げ、新たな気付きや情報共有の機会に繋げていく。

4. 栄養管理

利用者の栄養状態について適切にアセスメントを行い、多職種協働の中で、病状や症状に合った栄養ケアを実施する。利用者皆さんの声を聴き、様子を視ることにより生活の中で、食を通じて季節を感じ、楽しみとなれる安全で美味しい食事を提供していく。

5. 防災・感染症対策

防災・感染症対策についてはBCP（事業継続計画）を作成し、発災直後の初動対応及び事業継続ができるよう、シミュレーション訓練・研修を計画し実行していく。また、職員一人ひとりが防災意識を強く持てるように、訓練への参加を促していく。備蓄食を整備しており、定期的に使用するローリングストック形式で管理していく。

6. 在宅サービスの充実

3ヶ所ある通所介護では、各事業所の特性を活かし、重度化対応や認知症対応、地域住民との交流を行い、日々の暮らしの中で、安心して在宅での生活が長く続けられる様に身体や認知面での機能維持が出来るサービスの提供を行う。また、多様化していく利用者・家族のニーズにも柔軟に対応できるようにしていく。

7. 相談業務の充実

相談業務では、匝瑳市西部地域包括支援センター、居宅介護支援事業所と各事業所の生活相談員と情報共有し、虐待、貧困、病気、生活環境、介護負担等の問題を抱えている地域の相談者に対して、総合力を活かした迅速かつ適切なサービスへ繋げられる様に対応を行っていく。

8. 利用者数の目標値

特養入所（従来型）	定員 122名	利用率	98%
特養入所（ユニット型）	定員 30名	利用率	98%
短期入所	定員 10名	利用率	90%
通所（九十九里デイ一般型）	定員 30名	利用率	90%
通所（九十九里デイ認知対応型）	定員 24名	利用率	40%
通所（ケアサロン悠々）	定員 20名	利用率	90%
通所（飯高デイサービス）	定員 20名	利用率	90%
居宅介護支援事業所	195件		

令和6年度 事業計画書

特別養護老人ホーム第二松丘園
第二松丘園デイサービスセンター
第二松丘園居宅介護支援事業所
グループホーム第二松丘園
横芝光町地域包括支援センター

第二松丘園は新館が整備された平成24年より複合施設として事業運営している為地域からの期待や要望は年々増加している。特に地域包括支援センターによる業務は多種多様で今後も地域共生社会の実現に向け各専門分野と協力して課題解決への支援を行う事が求められる。

「事業目標」

法人の基本理念・基本方針に基づき利用者一人一人の声に耳を傾け、意思及び人格を尊重し、寄り添ったケアを行い生活の質の向上に努める。複合施設の利点である情報が共有できることを最大限生かし業務に反映させる。

「利用者の健康管理」

高齢期に起こる病気の発症、後遺症、持病など医療の分野がそれぞれの事業で必要とされるため協力病院、かかりつけ医と連携し重症化することを防ぐ。又新型コロナウイルス、インフルエンザ、ノロウイルスなどの感染症対応については作成したマニュアルを活用し研修を定期的実施し職員教育に努める。ターミナルケアも非常に多いことから医師から家族への説明する時間を十分とり、面会時間を最大限調整し充実した時間を過して頂けるよう配慮する。

「栄養管理」

高齢者の身体機能に合わせた献立を作成し食材、調理に工夫する。栄養バランスが良く旬の食材を使用し季節感と味・見た目にも配慮した食事を提供する。非常災害時への対応も法人各厨房との連携を図ると共に自施設のマニュアルを作成し随時更新しながら職員に研修等を通じて周知し訓練を重ね非常事態にそなえる。長期にわたり実施している在宅高齢者への配食サービスもマンネリ化することが無いよう取り組んでいく。

「リスクマネジメント」

ヒヤリハット・事故報告書の原因分析し、速やかに事故対策を講じ関係部署全

での職員に周知し事故を未然に防げるよう徹底する。又ご家族からの苦情に対しては詳細に聞き取り改善していく。

「防災体制」

複合施設である事を活かし部署毎の連携を図りながら、夜間、日中を想定し、地震・火災・水害時に備え総合的な訓練を入居者、利用者、職員を交え年間5回の訓練を行う。総合防災訓練には消防署、地元消防団にも訓練に参加して頂き協力体制を整える。また BCP（事業継続・災害・感染症）も職員に周知し組織として行動する。近年多い大雨洪水警報・千葉県東方沖での地震に対し様々なことを想定し災害にそなえる。第二松丘園の側を流れる栗山川に対して1階居住施設のグループホームには最大限の対応を検討していく。

「職員育成」

職員育成を図る上に必要な施設のマネジメント力の向上を視野に入れ、介護に関する基礎知識だけではなく様々な状況下で対応できる判断と適切な指導力が求められる。又職員一人一人に合った育成に心掛ける共にマニュアルの統一を図り職員全体でアプローチ出来る環境を作る必要がある。「指導」するのではなく、自らの答えが導かれるようサポートし職員としての成長がみられるよう多職種で協力する。

以上各項に取り組みながら各部門の数値目標を次の通り掲げる

	定 員	1日平均	稼働率
特 養	94名	94名	100%
ユニット	10名	10名	100%
短期入所	36名	30名	83%
グループホーム	18名	18名	100%
デイサービス（一般）	55名	50名	90%
デイサービス（認知）	12名	8名	66%
居宅介護支援事業所	180件（介護支援専門員4名）		

「今年度強化する取り組み」

- ・ BCP に関連する災害や感染症に対して、全職員が共通意識を持って取り組む。
- ・ パワハラ、モラハラなど意識的に行って居なくても相手を傷つけてしまう事柄についての研修。

令和6年度 事業計画書

九十九里ホーム山田特別養護老人ホーム
九十九里ホーム山田デイサービスセンター
九十九里ホーム山田居宅介護支援事業所

令和6年度に行われる介護報酬改定による加算の把握を行い、算定の継続や未算定の加算についても検討していく。

表面上、新型コロナウイルス感染症が収束となっているものの、厳しい状況は続いており、入所・短期入所・通所介護・居宅介護支援事業所それぞれの情報を的確に収集し、感染症に左右されない安定したサービスの提供ができるよう努めていく。

1. 地域高齢者の高齢化、重度化が進むなかで、施設利用者の自立支援を基本に、利用者のニーズに即した質の高いサービスの提供ができるよう職員の資質向上を積極的に図り、心身両面からのサポートを行っていく。又、職員のメンタルヘルスに関しては今年度もストレスチェックを実施しメンタルを含め、持病を抱える職員等の健康管理に役立てていけるよう努めていきたい。特に新入職員の育成には、職員全体として十分なサポート体制を確立し職員の定着を図っていく。人材の確保が大変厳しい状況ではあるが、サービスの質・量を確保するための職員配置に努めていきたい。
2. 事業所全体として高齢者虐待防止、身体拘束廃止へも積極的に取り組んでいく。内部研修、委員会の充実を図ると共に、外部の研修会にも参加し専門的な知識・技術の習得に努め、職員の意識向上を目指し利用者の人権・安全の確保に努める。
3. 施設入所者の健康管理・感染（症）対策等に十分留意し、各職種が連絡を取り合い、早期発見、早期治療、管理に努めていく。協力医療機関とも連携を図り、事業所全体として対策に取り組んでいく。また、医師を含めた話し合いの場を持ち、家族と施設との信頼関係の構築に努め、ターミナルケアや重度化対応へも多職種協働で取り組んでいく。

4. 健康で過ごすための安全でおいしく楽しい食事の提供とともに、個々の身体状況、栄養状態に合った栄養管理を行う為、多職種協働により栄養ケアマネジメントに取り組んでいく。また、利用者の食生活に変化と潤いを出すために行事食や、選択メニューを取り入れて、自己決定の機会を設ける。

5. 施設利用者及び施設運営に対するリスクマネジメントに法人、職員が一体となって取り組み、事故や苦情等の発生を未然に防止できるよう努める。苦情処理については、「苦情受付窓口」「ご意見箱」の設置により、入所者や家族からの意見や要望を受入れる。苦情申し立てには、迅速かつ適切に誠意を持って対応するよう努める。

6. 施設利用者の安全確保のために設備の充実を図るとともに、防災体制にも万全を期すよう水害・地震等の自然災害を含む防災訓練を年4回行い、施設利用者や職員の防災意識の啓蒙を図る。
又、平成23年の東日本大震災を教訓に、当施設においても災害に備えて、水や食料、他必要物品等の備蓄に努めると共に、地域の避難場所（香取市と福祉避難所の協定を締結）としての役割を担っていくことも視野に入れていく。令和6年の能登半島沖地震でのDWAT派遣も踏まえ、自施設だけの災害対応に留まらない考えを職員全体で持つようにしていきたい。

7. 地域高齢者の方々が、在宅生活を継続できるよう地域包括支援センターと連携をとり、ニーズの把握に努めていく。必要とされたサービスに対しては、市町村事業の進捗状況と合わせ、地域貢献としての役割も視野に入れて協議・検討し取り組んでいきたい。地域との繋がりとして慰問ボランティアの受け入れを感染対策を講じた上で再開し、新型コロナウイルス感染症によって希薄となっていた関係性の再構築を図る。

8. 稼働率の目標として、入所（定員70名）・短期入所（定員10名）計80名に対し、98%（78.4名）、通所介護（定員30名）は、80%（24名）をそれぞれ目標数値とする。又、居宅介護支援事業所（介護支援専門員3名）としては、予防プランも含め110件以上を目標とする。

令和6年度事業計画

障害者支援施設	聖マーガレットホーム
障害者短期入所事業所	聖マーガレットホーム
地域活動支援センター	聖マーガレットホーム
相談支援事業所	聖マーガレットホーム
匝瑳市障害者基幹相談支援センター	
匝瑳市虐待防止センター	

聖マーガレットホームは、施設入所支援・短期入所・地域活動支援センター・相談支援事業所に加え、匝瑳市より障害者基幹相談支援センターの委託を受け、地域の障害者対応の拠点となる。

障害者基幹相談支援センターは、行政及び各サービス事業所等と連携し、障害のある方が主体的に在宅生活を継続できるように他の事業所との調整を図る。地域ぐるみでの支援体制を整える。在宅障害者・障害児への支援の強化と医療的ケアを要する利用者の生活の質の向上を目指す。更に地域の虐待防止活動に積極的に取り組む。

一 利用者本位の運営

- ① 利用者の要望（ニーズ）を把握し、利用者一人ひとりにあった個別支援計画の作成・実施ができるように、各担当が中心となり積極的に働きかける。また、普段から些細な事柄にも気を配り、個々の利用者へのきめ細やかな対応と観察・記録ができるようにする。
- ② 利用者の心身の変化等には細やかな心配りをしながら速やかに対応し、多職種協働で利用者の健康管理を強化していく。
- ③ 入所者懇談会や日々のかかわりの中で利用者の意見に積極的に耳を傾け、ご家族と連携し利用者の生活が豊かになるよう心掛けていく。
- ④ 感染対策を講じながら、可能な限りご家族との関係を強化していく。
- ⑤ コロナ対応を継続しつつ、地域に出向く等、利用者の楽しみの幅を広げていけるように支援していく。

二 職員の資質向上

- ① 医療的ケアの研修に参加し、多くの介護職員が医療に関する知識と技術を習得し、サービス向上に努める。

- ② 職員のスキルアップのため、介護福祉士の資格取得を計画的に支援し、施設全体でバックアップしていく。
- ③ 職員の腰痛予防のため、リフター等の介護機器を活用し、継続したノーリフトケアに取り組み、全部署で引き続き腰痛予防体操も推進していく。
- ④ 可能な限り外部研修に参加し、伝達講習の機会を設け、施設内研修のさらなる充実を図っていく。
- ⑤ 安全への配慮としてヒヤリハットの情報を共有し、事故防止に努める。
- ⑥ 虐待防止に関する研修には積極的に参加し、障害者権利擁護や虐待に関する理解を深めることにより様々な視点でサービス向上に繋げていく。
- ⑦ BCP 研修等へは積極的に参加し、災害や感染症に関する研修の機会を確保し、防火管理者及び看護職員を中心に災害発生時や感染症に関する知識を高め、多様化する感染症の予防に努める。
- ⑧ 医療・看護・介護・給食・リハビリ・事務等の全職員が連携を図り、総合的な支援を行う。

三 地域や家族、関係機関との連携

- ① 地域の情報収集に努め、利用者及びご家族に対し必要に応じてそれぞれの専門機関と連携し、各種施策に関する助言及び支援を行う。
- ② 利用者の多岐にわたる相談等に対し、保健・医療・福祉・教育・雇用等の専門機関との連携を図るとともに紹介を行う。
- ③ 『虐待防止支援センター』として、虐待の通報があった場合には対象者に速やかな対応を心がける。また、市内の各事業所に対し、虐待防止に関する啓発活動を積極的に行う。
- ④ 短期入所は感染予防に努め、地域の皆様が安心して利用ができるように、ご家族や関係機関との連絡や調整を行う。
- ⑤ 入所待機者の情報を継続的に取り入れ、満床になるようご本人やご家族、関係機関との連携に努めていく。
- ⑥ 高齢の入所者には、ご本人の状況に相応しい施設に入所できるように各市町村窓口や高齢者施設との連携を強化していく。
- ⑦ 今後の福祉を担う実習生は積極的に受け入れ、親切・丁寧に指導し、地域の福祉人材の育成を図る。

四 その他

- ① 開設から29年が経過し、施設設備等も老朽化しているため、各種設備の点検を強化し、外装も含め必要に応じて整備を行っていく。
- ② 自然災害に備え、連絡体制の整備と非常用電源の整備を行う。感染症対策を踏まえた備蓄品の整備なども行い、福祉避難所としての役割を担っていく。

令和6年度 事業計画書

養護老人ホーム 瑞穂園
地域密着型特別養護老人ホーム 瑞穂園
瑞穂園デイサービスセンター

事業方針

- 一. 養護の入所については、関係機関等との調整を行い適切に活用できるようにする。また、契約入所についても利用促進に努める。
- 二. 特養入所者は重度化及び高齢化しているが、食事や活動・季節行事を通して、日々の暮らしを安全に楽しめるよう援助する。
- 三. デイサービスでは、機能訓練・季節行事や楽しみ活動を行い、利用者の在宅生活の支援を行う。
- 四. BCP 計画に基づいた訓練や研修を定期的に行い有事への認識を高める。
- 五. 地域行事への参加や災害時の施設機能活用について地域の方と共に協議を行う。

事業目標

- 一. 安全・安心な生活の実現
 1. 利用者・入所者の安全及び安心できる生活の実現のため、健康管理・衛生管理を行い感染症予防・事故防止に努める。
 2. 虐待防止及び身体拘束廃止についての知識を高め、常に人権に配慮した援助を行う。
 3. 防災訓練を災害想定別に年3回以上行う。物品の備蓄を1～2週間分を想定して準備する。
 4. BCP 計画に基づいた訓練や研修を定期的に行い有事への認識を高める。
- 二. 生きがいや楽しみ活動の推進
 1. 養護では、個別対応を行うことで、自立支援を目ざし、小グループでの活動や外出の機会を増やし心身の活性化を図れるようにする。
 2. 特養では入所者が重度化・高齢化しているが、食事や活動・季節行事を通して、日々の暮らしを安全に楽しめるよう援助する。
 3. デイサービスでは機能訓練、季節行事や楽しみ活動を行い在宅生活が継続できるよう支援する。
リハスタッフの加入により、利用者にとって利用価値が高まるようアピールを行う。

三. 職員の資質向上と職員確保の推進

1. 職員の資格取得やキャリアアップに向けた取り組みを支援すると共に、知識や技術向上のために研修を行う。
2. 外部研修や web 研修などを活用し、一人一人の向上の機会を持てるようにする。
3. 職員の確保について、ハローワークやホームページを活用し、安定した職員体制が組めるようにする。
4. 職場の福利厚生や長期勤務のメリットについて発信することで離職を防ぐ。

四. 職場の安全衛生管理

1. 職場の安全衛生管理を行い、感染予防に努めることで、職員が安心して働ける労働環境を構築する。
2. メンタルヘルスを推進し職員の精神的健康の保持増進を図る。
3. 様々なハラスメント行為により、職場のチーム力が低下しない様に知識を深め、一人一人の認識を高める。

五. 地域活動及び地域住民との共生

1. 地域行事として下富谷環境保全活動に年 3 回参加し協力する。
2. 地域密着型施設として運営推進会議を年 6 回行う。
3. 感染症の状況を鑑み、地域活動やボランティア活動の調整を行う。
4. 災害時の施設機能の活用について地域の方と協議を行う。
5. 物資の備蓄について地域の方の避難も含めて考慮する。

六. 利用数値目標

養護 定員 50 名 1 日平均利用者 42 名

* 契約入所を含める。

特養 定員 29 名 1 日平均利用者 28 名

* 入退院の管理を適切に行い、空室期間の解消に努める。

デイサービス 定員 30 名 1 日平均利用者 20～23 名

* 職員体制減により利用調整を行う。

令和6年度事業計画書

九十九里ホーム飯倉駅前あかしあこども園

1 新しい取り組み

こども園の基本方針、保護者の声、園児の実態から職員の声に基づき

◎心身を楽しく鍛えよう！！あかしあランド12ヶ月

月毎の活動

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12
活動	座る・立つ	歩く	回る	水遊び	水遊び	登る	走る	長く走る	踊る
月	1	2	3						
活動	押す・倒す	投げる・蹴る	跳ねる・ぶら下がる						

※更に年齢に応じて具現化して取り組む

3歳児の例

月	活動	内容
4	座る 立つ	マット遊び：バランスゲーム等
5	歩く	リトミック：(スピード、音の高さ低さを変える)等
6	回る	マット遊び：前回り等

2 毎日の取り組み

①気持ちの良い挨拶ができる

- ・おはようございます
- ・さようなら
- ・ありがとうございます
- ・ごめんなさい (0～5歳児)

②思い切り遊ぶ

③金銭教育の一部継続 (スタンプ帳・あかしあバンクの継続 2～5歳)

3 定員数

(1) 定員及び令和6年度入園予定者

年齢区分	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
1号 (定員)				10	10	10	30
予定者	0	0	1	2	4	9	16
2・3号 (定員)	3	15	18	20	20	20	90
予定者	9	19	14	21	17	17	97
合計 (定員)	3	15	18	30	30	30	120
予定者	9	19	14	23	21	26	112

(2) 職員配置基準及び令和6年度職員配置予定

年齢区分	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児
配置人数	1名	3名	3名	2名	1名	1名
配置基準	3:1	6:1	6:1	15:1	25:1	25:1
配置予定 職員人数	3名	4名	4名	3名	2名	3名

4 子育て支援事業の取り組み

(1) 時間外保育

- ・7時30分から受け入れ、18時30分まで預かる

(2) 一時預かり(7ヶ月から)

- ・月曜日から土曜日

(3) 子育て支援センター(6ヶ月から自由参加)

- ・火、水、木の3日間 10時から12時、13時から16時

(4) 児童クラブの開設

- ・月曜日から土曜日
- ・長期休業日 夏休み、冬休み、春休み

(5) 園庭開放

- ・毎週金曜日 14時から17時

(6) 完全給食

- ・離乳食、アレルギー食にも対応
- ・季節ごとの行事食

(7) ママカフェあかしあ

- ・毎月1回 年間行事予定に記載

令和6年度事業計画書

飯倉駅前特別養護老人ホームシオン

開設6年目を迎え、地域の中で高齢者支援の中核として活動している処である。継続して進めている福祉のまちづくりについても、法人としての役割の中で当施設の担えるものは積極的に構築していく事とする。職員個々の目標を分析し、前年度の計画の達成度を検証して本年度の取り組みを策定し、令和6年度の事業計画とする。

1. 感染症対策

新型コロナウイルス感染症は、国の方針で感染症の分類が変更になっても、依然感染力は強く、検査が十分に行えなくなってきた現状から壊滅は困難であろうと思われる。更に、他の感染症についても、高齢者の重度化は最も恐れるところである。職員においては、健康管理に一層の自覚を促し、予防に心がけ、入所者に感染させない配慮が求められている。対策については、法人内感染対策委員会の決定に従って対応することとする。

2. 災害対策

災害対策については、災害時の事業継続について、計画書が義務付けられたこともあり策定済である。しかし乍ら、年明け早々の能登地方の大地震は、想定をはるかに超えるものであり、一日も早い復旧が待たれるところである。その災害に注目するとともに計画書の見直しを行い、出来るだけ多くの職員を研修や訓練に参加させ意識の統一をはかっていく。

3. 科学的介護の推進

介護用ロボットの活用については、千葉県補助金を積極的に活用し、比較的多くの機器を導入している。これらを活用して介護に対する不安を少しでも取り除き安心して効率の良い職場環境を提供できればと考えている。本年度は更に生産性の向上を目指し、機器の導入による身体介護時間の効率化により生まれる時間を入所者のメンタルに寄り添いながら科学的介護を拡充していく。

4. 自立支援介護の検証

開設当初より実践してきている自立支援介護について、全職員が関わっていくための進め方を今一度振り返り検証しながら検討していく事とする。出来るだけ多くの職員が検討事例にかかわるよう、又eラーニングによる自立支援介護研修を全職員に実践してもらい、確認テストを含め全員で進めていく事でコンサルの指導を継続していく。

5. 認知症ケアについて

県の指導もあり、概ねの職員は研修を終えている。それを踏まえ、改めて症状別の認知症について分類することで対応の仕方を研究していく。自立支援介護の理念に沿って薬だけに頼らず対応できるよう事例を積み重ねて継続し、軽減に向けて取り組んでいく。今後も増え続ける認知症の対応について、個別に丁寧に寄り添う気持ちを大切に進めていきたい。

6. 人材確保・定着・育成

介護に関連するあらゆる分野の人材の不足が深刻な状況になってきている。現在様々な工夫を凝らして人材集め、求人活動を行っている処である。しかし乍ら、即戦力としての期待は難しく、将来的な展望としてセミナー等も役立つのかと考えている。現状では、限られた人材を大切にしながら、専門学校、大学の自習の受け入れを積極的に行っている。職業体験、職場説明会等のイベントを数多く実施しているが反応はあるものの確保にはつながっていない

状況である。自施設の問題として捉えることなく引き続き法人全体できめ細かく努力していく。

7. 虐待防止について

高齢者施設に於ける凄惨な事件が後を絶たず、重大な課題として捉えなければならない。自身の想いではなく、受け手が不快な思いや身体的苦痛を感じていないか充分認識し、何よりも入所者とのコミュニケーションを密にして信頼感を構築していく事で防げるものも多いと思われる。認知症等の研修を通して実体験中から学んでいく姿勢が大切であって、積極的に取り組んでいく。

8. 看取り介護について

看取り介護の事例は徐々に増えてきており、入所者殆どの方が施設での看取りを希望されている。入所者、ご家族との信頼関係を構築し、個々にサポートしていけるようにする。そのためにカンファレンスを繰り返し実情の把握に努め、必ずや訪れる看取り期の役割をご家族の後方支援として役割を果たしていく。そのために外部研修も含め幅広い内容を習得し、実践していく。グリーフケアについてもご遺族への心配りとして継続して進めていく。

9. 働き方改革とワークライフバランス

職員の労働時間や年次有給休暇の付与については、生産性の向上のためのロボット導入による科学的介護の進め方等により、限定された人員配置の中で実情に合った方法で工夫しながら進めていく。しかし乍ら、職員の疲弊度はピークに達していることと思われる。そのような環境の中でチームワークやコミュニケーションの深まりをプラスの方向として捉え、近い将来職員の中からも希望の出ている週休3日制について検討していきたい。先進施設の例を参考に進めていきたい。心身の健康については、産業医による指導を徹底するとともに、ストレスチェックや健診等安心して働ける環境作りに務める。

上記の各項に取り組みながら、各部門の数値目標を次の通り掲げる。

10. 入所部門・在宅部門の目標値

入所部門：従来型稼働率 99%⇒1日平均 59名（定員 60名）

ユニットケア稼働率 99%⇒1日平均 39.6名（定員 40名）

在宅部門：ショートステイ稼働率 90%⇒1日平均 18名（定員 20名）

令和6年度事業計画

特別養護老人ホーム太陽の家
太陽の家デイサービスセンター

令和6年1月1日から社会福祉法人滋生福祉会より、社会福祉法人九十九里ホームへの業務継承が行われた。

サービスを御利用されている御利用者やその御家族、入居されている御利用者やその御家族が安心してサービスの御利用や生活ができる様努めていく。

前法人より引き続き働いてくださる職員も安心して働けるように、又九十九里ホームの施設としての基本的な運営方針を理解して戴く為に、一層の話し合いの場を設けるように努めていく。

1. 体制づくり

- ・様々な事柄（各職種の業務マニュアルや新人育成マニュアル、施設全体に必要な各種マニュアルや指針、収支に関する事、人員配置、前法人からの引継ぎ等）を広範囲に抽出し、継続できるものは継続し、引き継ぐことの難しいものは、代替案や対応を検討し性急に事を運ばず、着実に体制づくりを行っていく。
- ・身体拘束や虐待防止、感染症対策予防、認知症等の様々な研修への参加や、資料の配布等で職員の育成や意識向上に努める。
- ・人材確保、人材育成の難しい状況にあるが、マニュアル整備や施設内外の研修への参加から、サービスの質や量の確保向上に努めていく。
- ・各種マニュアル整備、書類整備に努める。

2. 職員の増強

- ・安定した施設運営や各種加算の取得、稼働の向上へ向けて、運営規程上必要な職員を確保していかなければならない。
- ・せっかく入職した職員を、職員一丸となって育成するための、マニュアル整備を含めた環境整備に努める。
- ・今後、実習生の受け入れや、求人募集に関わる取り組みへ積極的に参加して行く。

3. 備品、設備の整備

- ・ B C Pを含めた感染グッズや自然災害時用の備蓄の確保。
- ・ 旧体制で取引されている各業者の、各物品の単価の確認や、リース契約されている、各種備品関係の精査。
- ・ 大規模修繕が必要と思われる箇所が複数あり、各業者への確認依頼や、法人内施設管理係りの応援で、業務に支障のないよう修繕に取り組む。

4. 給食面

- ・ 栄養ケアマネジメントへ取り組んでいくための、多職種共同によるシステム構築に取り組む。

5. 防災機器と訓練

- ・ 避難経路の確認やマニュアルの作成に努め、防災、地震や水害等の自然災害に対する職員の防災意識への啓もうを図る。
- ・ 防災機器の修繕箇所や使用方法の確認実施し、周知すると共にそれらの使用方法を取り入れた訓練を行う。

6. 稼働数値目標

- ・ 入所（定員 50 名） 9 5 % （平均 4 7 . 5 名）
- ・ 短期入所（定員 8 名） 7 0 % （平均 5 . 6 名）
- ・ 通所介護（定員 20 名） 6 5 % （平均 1 3 名）

上記を今年度は目標としたい。

令和6年度 事業計画書

老人保健施設 ミス・ヘンテ記念ケアセンター

令和6年4月の介護報酬改定により、老人保健施設が訪問リハビリテーションを併設する要件が緩和されたこともあり、将来的には訪問リハビリテーションの併設を行い、老人保健施設機能のアピールポイントであるリハビリテーションを積極的に展開する。

当施設の基本報酬の人員配置区分は、令和5年7月よりリハビリスタッフを2名増員し「在宅強化型」を算定できるようになった。が、当該体制を維持するために稼働率が下がってしまった。

令和6年度は在宅強化型の体制を維持しながら稼働率とのバランスを取る。また法人内外各事業所との連携を緊密に図りその機能を高めて、利用者サービスの向上を目指すものとする。

1. 利用者取扱数等

- | | |
|--------------|-----------------|
| ① 入所者1日平均 | 73名 (内、短期入所者4名) |
| ② 通所者1日平均 | 26名 |
| ③ 1ヶ月平均入退所者数 | 10名 (短期入所者除く) |

2. リハビリテーションの充実等

利用者の在宅復帰・在宅生活支援の観点を重視して、体力や基本動作能力の獲得、生活機能向上を目的に、多職種協働によるリハビリテーションを積極的に展開していく。従来の維持期だけに止まらず回復期のリハビリテーションについては、短期・集中的に実施する。

「在宅強化型」算定要件である入所者の週3回のリハビリテーションを行うとともに、施設全体のリハビリテーション機能を高めていくものとする。

3. 年間諸行事

- ① 季節感のある利用者のための諸行事開催
- ② 利用者の安全確保及び災害対応力強化のための防災訓練（風水害訓練を含む）の実施(年3回)
風水害訓練に際しては、令和2年度に整備した非常用自家発電設備を活用する。
- ③ 環境整備のための害虫駆除消毒(年4回)、床ワックス清掃(年2回)の実施

4. 認知症高齢者への対応

年々増加する認知症高齢者については、その置かれた環境や提供するサービスの質により落ち着いて生活できるといった事例が数多く報告されている。一人ひとりの精神症状・異常行動の原因（成り立ち）を把握し、認知症の程度症状に応じたきめ細かい対応を心掛け、安心・安全な家庭的雰囲気作りを工夫する。馴染みの仲間作りやクラブ活動の幅を広げる等、職員との接する時間を多く持てるような業務調整を行い、精神活動の保持増進を図るものとする。

また、施設内認知症研修の実施と認知症短期集中リハビリテーションを継続し、認知症利用者への介護サービス向上を目指す。

5. 感染症対策体制の徹底、衛生管理の充実

虚弱な高齢者が利用者であることを踏まえ、施設内感染症対策及び衛生管理(食中毒の予防及び蔓延の防止)に一層力を注ぎ、設備面の充実、職員教育の徹底を図って行くものとする。特に新型コロナウイルス、ノロウイルス、各種インフルエンザ予防対策に重点を置き、その効果が発揮できるように法人内感染対策委員会に参画し、施設内感染症対策研修を実施し知識・技術の向上、情報収集に努める。

6. 拘束しない介護への取り組み

高齢者ケアの原則である「自立支援、QOLの向上、人権・自己決定の尊重、普通の生活」等をケアの現場で、いかに実践していくかが「拘束しない介護」に結びついていくと考えられる。

利用者個人のさまざまな機能や能力の評価、要望の傾聴、行動パターンの把握、生活背景の理解等から、身体拘束を必要としない状態を作り出す。

また、問題行動がある場合も原因を追求しその原因を取り除くことで、問題行動そのものの解消を目指す。これらを実行するために、具体的事例に対して施設内拘束廃止委員会を開催する。

7. 介護事故発生の防止等（リスクマネジメントの強化と情報開示）

苦情等を密室化しないで情報を開示し、社会性と客観性を保ち円滑・円満な解決を図るシステム構築に引き続き取り組む。施設情報についても、ホームページ等を活用し積極的に公開して、閉塞感のない施設運営を行う。

介護サービスに伴って発生する「リスク」には、「転倒・転落」のように事前に予防対策がなされていても発生するものもあれば、全く予測できないものもある。

「リスクの把握」「リスクの分析・評価」「リスクへの対応、処理」「リスクの再評価・再発防止」の一連の活動を、断続的に繰り返すことにより、事故の発生又は再発を防止する。また、日頃より利用者や家族とのコミュニケーションを大切に、認識の差が小さいうちに誠実に対応する。

利用者およびその家族等の個人情報について、「個人情報保護法」の理解を深めこれを遵守する。

8. 褥瘡防止対策

「褥瘡をつくらない・早期治癒」を目標に掲げ、施設内褥瘡防止研修を実施し褥瘡が発生しないよう適切な看護・介護サービスを提供するとともに、その発生を防止するための用具や機器を整備する。

9. ハラスメント防止対策

介護現場におけるハラスメント対策の体制整備とその周知・啓発を行い利用者・家族等・職員にとって、より良い環境を整えるものとする。

10. 在宅生活支援施設としての役割

地域包括ケアシステムの基盤強化に関連し、利用者の方々が、自立した在宅生活を継続できるよう介護予防に努め、現在提供しているサービスの他、将来的には訪問リハビリテーションサービスの提供体制を構築し、家族の介護負担の軽減に資する。

11. 人材育成と人材確保について

職員の働き甲斐（職場環境の整備、待遇向上等）を高めて、様々な方法を駆使し人材育成と人材確保を進めて、サービスの質及び利用者満足度の向上につなげていくものとする。施設実習者から選んでもらえる施設になるべく、親切且つ丁寧な対応を極めていく。

12. 事業継続計画（BCP）について

災害発生時及び感染症発生時にもサービス提供を継続できるように、事業継続計画に沿って研修及び訓練を実施する。

13. 介護ロボットやICT等のテクノロジーの活用促進について

見守り機器等の導入及びICT等のテクノロジーの活用について、どのような機器・設備が有効かの判断を行い導入に向けた検討を進めるものとする。

14. 建物、設備等の修繕等

建物、設備における老朽化及び経年劣化部分の修繕等を予算確保のうえ実施して、利用者サービスの向上及び職員の業務省力化を目指す。

- ① 2、3階廊下の床工事
- ② 照明のLED化工事

令和6年度 事業計画書

老人保健施設 日向の里

令和6年4月の介護報酬改定により、老人保健施設が訪問リハビリテーションを併設する要件が緩和されたこともあり、近い将来、リハビリスタッフを増員して訪問リハビリテーションの併設を行い、老人保健施設の機能を強化し地域のニーズに応えていく。また言語聴覚士（非常勤 週8時間以上勤務）を雇用し利用者の嚥下機能評価を適切に行う。

地域の利用者ニーズを踏まえながら当法人各施設との連携を今まで以上に強化し、安定した運営とサービスの質の向上を図る。また利用者及び家族等からの厚い信頼を得られる施設を目指すものとする。

1. 利用者取扱数等

- | | |
|--------------|----------------|
| ① 入所者1日平均 | 76名（内、短期入所者3名） |
| ② 通所者1日平均 | 28名 |
| ③ 1ヶ月平均入退所者数 | 10名（短期入所者除く） |

2. リハビリテーションについて

利用者の在宅復帰・在宅生活支援の観点を重視して、体力や基本動作能力の獲得、生活機能向上を目的に、多職種協働によるリハビリテーションを行い、従来の維持期だけに止まらず回復期のリハビリテーションについては、短期・集中的に実施する。

3. 年間諸行事

- ① 季節感のある利用者のための諸行事開催
- ② 利用者の安全確保及び災害対応力強化のための防災訓練（風水害訓練含む）の実施（年3回）
- ③ 環境整備のため、害虫駆除消毒の実施

4. 認知症高齢者への対応

年々増加する認知症高齢者については、その置かれた環境や提供するサービスの質により落ち着いて生活できるといった事例が数多く報告されている。その対応方法の一つであるユニットケアについて、導入出来る部分は当施設に適したものに調整して取り入れて行く。従来の大人数での画一的なサービスの提供ではなく、小人数の家庭的な雰囲気の中でサービスを提供することにより、認知症高齢者の精神的安定を得られることを期待する。また、施設内認知症研修の実施と認知症短期集中リハビリテーションを活用し認知症利用者への介護サービスの幅を広げる。

5. 感染症対策体制の徹底、衛生管理の充実

虚弱な高齢者が利用者であることを踏まえ、施設内感染症対策及び衛生管理（食中毒の予防及び蔓延の防止）に一層力を注ぎ、設備面の充実、職員教育の徹底を図って行くものとする。特に新型コロナウイルス、ノロウイルス、インフルエンザ予防対策に重点を置き、その効果が発揮できるよう法人内感染対策委員会に参画し、また施設内感染症対策研修を実施し知識・技術の向上、情報収集に努める。

6. 拘束しない介護への取り組み

高齢者ケアの原則である「自立支援、QOLの向上、人権・自己決定の尊重、普通の生活」等をケアの現場で、いかに実践していくかが「拘束しない介護」に結びついていくと考えられる。利用者個人のさまざまな機能や能力の評価、要望の傾聴、行動パターンの把握、生活背景の理解等から、身体拘束を必要としない状態を作り出す。また、問題行動がある場合も原因を追求しその原因を取り除くことで、問題行動そのものの解消を目指す。これらを実行するために、具体的事例に対して施設内拘束廃止委員会を開催する。

7. 介護事故発生の防止等（リスクマネジメントの強化と情報開示）

苦情等を密室化しないで情報を開示し、社会性と客観性を保ち円滑・円満な解決を図るシステム構築に引き続き取り組む。施設情報についても、ホームページ等を活用し積極的に公開して、閉塞感のない施設運営を行う。

介護サービスに伴って発生する「リスク」には、「転倒・転落」のように事前に予防対策がなされていても発生するものもあれば、全く予測できないものもある。

「リスクの把握」「リスクの分析・評価」「リスクへの対応、処理」「リスクの再評価・再発防止」の一連の活動を、断続的に繰り返すことにより、事故の発生又は再発を防止する。また、日頃より利用者や家族とのコミュニケーションを大切にし、認識の差が小さいうちに誠実に対応する。

利用者およびその家族等の個人情報について、「個人情報保護法」の理解を深めこれを遵守する。

8. 褥瘡防止対策

施設内褥瘡防止研修を実施し、褥瘡が発生しないよう適切な介護サービスを提供するとともに、その発生を防止するための用具や機器を整備する。

9. ハラスメント防止対策

介護現場におけるハラスメント対策の体制整備とその周知・啓発を行い利用者・家族等・職員にとって、より良い環境を整えるものとする。

10. 在宅生活支援施設としての役割

地域包括ケアシステムの基盤強化に関連し、利用者の方々が、自立した在宅生活を継続できるよう介護予防に努め、現在提供しているサービスの他、将来的には訪問リハビリテーションサービスの提供体制を構築し、家族の介護負担の軽減に資する。

11. 人材育成と人材確保について

職員の働き甲斐（職場環境の整備、待遇向上等）を高めて、様々な方法を駆使し人材育成と人材確保を進めて、サービスの質及び利用者満足度の向上につなげていくものとする。人材確保の一環として施設実習に来所した学生の対応を今まで以上に親切且つ丁寧に行う。また、高齢化が進んでいる看護職員体制の改善を図っていく。

12. 事業継続計画（BCP）について

災害発生時及び感染症発生時にもサービス提供を継続できるように、事業継続計画に沿って研修及び訓練を実施する。

13. 介護ロボットや ICT 等のテクノロジーの活用促進について

見守り機器等の導入及び ICT 等のテクノロジーの活用について、どのような機器・設備が有効かの判断を行い導入に向けた検討を進めるものとする。

14. 建物、設備等の修繕等

建物、設備における老朽化及び経年劣化部分の修繕等を予算確保のうえ実施して、利用者サービスの向上及び職員の業務省力化を目指す。その優先順位は下記のとおりとする。

- ①調理室内の床補修工事
- ②屋上の防水補修工事
- ③通所浴室用給湯設備（瞬間湯沸し器）の新設
- ④療養室他のフローリング張替
- ⑤外壁・屋根の塗装
- ⑥2階ウッドデッキの改修工事→利用者の活動範囲を広げる
- ⑦駐車場のラインの引き直し
- ⑧入所者用一般浴槽を個浴への変更工事（ガス使用量の無駄を無くす）
- ⑨クロスの張替工事
- ⑩カーテンの更新

令和6年度事業計画書

サービス付き高齢者向け住宅聖アンナ館
九十九里ホームヘルプステーション
定期巡回・随時対応型訪問介護看護

聖アンナ館は法人の理念『一人ひとりに愛と希望を』を軸に福祉ニーズに対応した事業運営を展開する。展開方法として、個人の環境や住宅事情、身体状況等の理由により、自宅において生活することが困難な高齢者に住宅を提供し、介護が必要な入居者には介護サービスを提供する。その為に日常生活を支える必要な支援サービスと介護・医療サービスを組み合わせることで心身共に健康で安心できる快適な生活、そして何よりも「自分らしさ」を失わない自由度の高い暮らしを営める事を目的とし今年度の事業目標及びサービス目標を掲げる。

事業目標

- 1 3年目の聖アンナ館では、満足度の高い住宅「サービス付き高齢者向け住宅」を目指す。その為には個々の社会的孤立や、孤独の状況に陥ることのないように、地域活動等への参加を促し、孤立への不安を軽減し、個々が活躍できる日常活動に取り組んでいけるよう支援を行う。また、事業内容の充実を図る為、入居者懇談会を年2回開催し「見える化」運営を入居者家族と共に歩んでいく。
- 2 「お試し居住」の今後の展開としては、移住を検討している方を中心に、宿泊する事を通して、匝瑳市の風土、そして魅力を知ってもらいながらの暖かい宿泊施設づくりを目指す。また、地域再生推進法人としての役割を果たすために、移住者への支援、相談を行い、移住者の力になれるように努力する。
- 3 「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」の目標として、地域密着型介護医療連携推進会議を年間2回導入することにより、アンケート調査を実施し、入居者家族の満足度指数をアップする。更に外部評価に取り組み、サービスの質の向上ヘルパーの接遇の向上を目指していく。そして、介護・医療に満たされた環境を整え、コミュニケーションを多く図り、不安のない生活が送れるよう支援する。
- 4 「九十九里ホームヘルプステーション」においては、アンナ館（内部）ヘルプステーション利用者、在宅（外部）ヘルプステーション利用者への個々のニーズを把握し利用者本位、家族本位のサービスの提供に着目する。また更なる事業展開としてア

ンナ館（内部）ヘルパー利用者への幅広いサービス提供の為に、要望の強い介護保険外サービスを開始する。

サービス目標

・人に寄り添うケア

入居者の心身の状況を的確に把握し、見守りサービス、相談援助等の生活相談、その他必要なサービスを提供し、入居者に寄り添うケアを推進する。

・食事サービスの充実

食事提供のサービスでは、入居者の特性から、自立されている方や要介護度の方など個々の身体機能が異なる為、個々の状況に合わせた適切な食事形態の提供を行っていきます。また、嗜好調査から入居者の声を聞き取り、献立内容を検討し美味しい食事提供を行います。また災害時の対応として、給食に関する災害マニュアルを整備し、多職種で共有していきます。

・孤立化解消

社会的孤立感解消のため動物（犬）とのふれあいを通じ癒しの時間の提供、更にはクラブ活動などは外部等より講師を招いたりし、社会とのコミュニケーションづくりを図っていく。

・職員育成

職員育成においては、法人の基本理念に基づき「向上心のある職員」を育て、人が人に行うサービスの素晴らしさを見逃さないような職員の育成に力を注ぐ。更には、職員の技術や知識向上を図るため内部研修を積極的に行う。

・ヘルパーの役割

ヘルパーは利用者本位、家族本位のサービスを提供するために、家族の声に耳を傾け、利用者と共に暮らす家族の精神ケアに心掛け、不安を取り除き、生活に張りがあり、これからの意欲に繋がるケアを工夫していく。

・訪問介護・訪問介護・アンナ館の連携

入居者、利用者の利用定着及び利用者確保を維持するためには、「訪問看護」「訪問介護」「アンナ館」が連携を図り医療、介護に見守られて個々が安心して生活を送れるよう支援していく。

・非常災害対策

非常災害対策として消防計画を作成するとともに、当該計画に基づく訓練、点検を実施する。更に事業継続計画を取り入れながらの運営を行う。

・労働環境

業務の円滑な遂行のためには、職場内の働きやすさ、人間関係づくりが重要と考える。その為には職員が安心して働ける労働環境づくりに努める。